

旭
陵
関
西

発行人
旭陵同窓会関西支部長
杉 顕 紹
印刷所 富士精版印刷㈱
TEL. 06-6394-1181

同窓会は「絆」の場



旭陵同窓会関西支部長
杉 顕 紹
(43期)

旭陵同窓会関西支部の会員の皆様、お変わりありませんでしょうか。平素は同窓会の活動に対してご理解とご支援をお寄せいただき、厚くお礼申し上げます。この原稿を書くのと昨年の会報「旭陵関西」を読みかえしておりました。総会、池田や堺を歩いたハイキング、カニカニ旅行にゴルフとたくさん写真に会員の方々の笑顔が写されています。あの時こんなことがあったなあ、と思い出しながら読んでいまして気がついたら原稿を書くのを忘れていた、というよう

な感じになっておりました。去る三月十一日に発生した東日本大震災で津波に流されていく家屋の映像を見て、大自然の前にして私たちの力がいかにか弱いものだったのか、私たちの便利で快適な生活がいかに脆弱な基盤の上に成り立ったものだったのかということに改めて実感させられました。多くの方々の命や財産が失われ、まだ多くの方の行方が分からない状態です。原子力発電所の事故はいまだに終息の兆しも見いだせず、多くの方が避難所の不便な生活を余儀なくされています。

先日、そんな困難な環境の中で、

日本の文化・伝統・国土を大切に



旭陵同窓会会長
木下 毅

三月十一日の東日本大震災で被害を受けた方々に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興を願っています。下関市は自然災害に日本一安全な町だそうなんです。震災復興に関西や下関が大いに役に立つチャンスだと思えます。旭陵同窓生の活躍が期待されます。東日本大震災被災地で先祖から

古くから形成されてきた地区の共同体が中心になって新しい町をつくらうという活動が始まったというニュースが紹介されていました。自分たちが持っている土地などを出し合って新しく安全な居住区を自分たちで作る、かつての結びつきをもう一度取り戻そうという活動です。ここでは、その地域の人々を深く結びつけてきた「絆」というものが重要な力になっていくということを感じました。困難な環境だからこそ、行政の動きが遅くても、自分たちで自分たちのつながりを力にして新しいものを作り出そうという動きです。ふり返って考えてみますと、同窓会というものの「絆」を力にした集いだと感じています。時代には違いますが同じ高校に学んだということを絆に、世代や

立場を超えて集い、語りあい、励ましあう場です。そしてそれを会員の皆様の新しい活力につなげていただければこれに勝る喜びはありません。今後とも様々な行事を通じて会員の皆様の「絆」を強めることができようよう努力したいと思えます。



山口県立
下関西高等学校校長
中村 芳喜

九月の総会には是非ともご出席いただき、旭陵同窓会の絆を改めて感じていただくとともに、元気に集い、語り合える幸せとともに喜びあいたいと思えます。

ごあいさつ

なられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、未だ避難生活を続けておられる皆様に心からお見舞いを申し上げます。

「国難」という言葉も使われておりますが、こうした厳しい状況の中で、日本国民が困難に立ち向かう力強さと、互いを支え合い、励まし合う優しさを共有していること、とりわけ若い世代が募金等の支援活動や被災地でのボランティア活動に活躍する姿に勇気づけられます。

本校におきましても、全日制・定時制それぞれの生徒会が直ちに募金活動を進め、さらに、始業式では新生徒会長が「一回限りでなく長く支援を続けよう。私たちにできることを考よう。僕はみんなの笑顔のためにがんばります」と呼びかけました。本校のみならず全国の高校生が大震災の重みを受け止め、それぞれの場で「自分にできることは何か」と問い、行動していることは次の時代につながる光となるでしょう。

私も、卒業以来四十年振りに母校に戻り、教員生活最後の二年間を後輩たちと共にしっかりとがんばろうと決意を新たにしました。どうかよろしく願います。

の言い伝えを大切にしていた地域では、人的被害が少なかつた様です。先日、アフガニスタンで医療活動をされている中村哲さんのお話を伺いました。日本人と分かることも尊敬されたそうです。それは日露戦争に負けなかった事です。アフガニスタン人は地理的な関係でもロシアの強さと怖さを知っていたからです。これで日本もロシアの属国になってしまうのだと、かわいそうだと思っていたこと。それが負けなかった事で尊敬していると。二つ目は唯一の被爆国である事、第二次世界大戦後の荒廃から見事に立ち直り経

済大国にまでなった事を尊敬しているという事だそうなんです。先生は医療のために行かれたのですが、医療よりも、水が無いと生活も出来ず衛生状態もひどいのなので、大灌漑工事を始められました。一七六〇年に筑後川の山田堰で使われていた生態系にやさしい工法で行われました。日本古来の文化やしきたりの偉大さをあらためて感じました。私たちは日本の文化・伝統・国土を後世に伝えてゆかなければいけないことを外国の人と東日本大震災から学んだような気がします。九月四日の関西支部総会を楽しみにしています。

関高 平成23年度 旭陵同窓会関西支部総会案内

- 日時：平成23年9月4日(日) 10:30~15:00
- 場所：大阪弥生会館 大阪市北区芝田2丁目4-53 ☎06-6373-1841
(JR大阪駅、阪急梅田駅、地下鉄梅田駅より徒歩5分)
- 来賓：木下同窓会会長、本部役員、中村校長他
- 会費：8,000円(家族3,000円)
- 式次第：10:30~11:00 総会
11:00~12:30

軽装・ノーネクタイで
ご出席下さい

特別講演 岡村 定矩氏(東京大学教授)

◆演題◆「宇宙って何だか知っていますか?」

12:40~15:00 懇親会

※同窓生をお誘い合わせの上是非ご出席下さい。(ご家族の参加も歓迎)

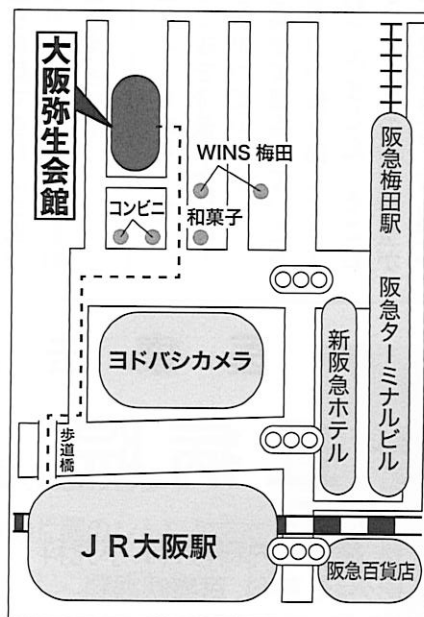
※つり銭のいらないようご準備下さい。

※なお、同封葉書にて出欠の連絡を7月31日までをお願いします。

(欠席の場合も名簿整理上必ず返信をお願いします。無回答はやめましょう。)

※回答後、出欠等の変更がある場合は、事務局まで必ず連絡して下さい。

「旭陵同窓会関西支部」ホームページ <http://page.freett.com/kyokuryo/index.htm>



岡村 定矩氏 略歴
一九六六年 下関西高等学校卒業
前東京大学理事・副学長
現東京大学教授(大学院理学系研究科天文学専攻)
現東京大学国際高等研究所所長

平成二十一年度 総会の状況

猛暑に負けず 価値ある「濃い」集まり

当番幹事 川野 博義(五十七期)



恒例の福引き抽選の後、全員で校歌と応援歌を大合唱し、一体感を醸成し合いながら閉会となりました。

総会後の二次会にもたくさんの方に参加頂き、夜まで西高の連帯感の中に浸ることができました。

今年の夏の記録的な猛暑は、九月五日の総会当日もそのまま続いていたが、会場の大阪弥生会館には、百十名を超える方々にお越し頂き、盛会のうちに終えることができました。当番幹事とはいつも常任幹事の皆様のお手伝い程度しかできませんでしたが、大変有意義な経験をさせて頂きました。

早朝の新幹線ダイヤの乱れのため式次第の変更があり、午前中の第一部でメインイベントの古川薫先生による「田中絹代の光と影」をテーマとする講演をして頂きました。

往年の大女優・映画監督と郷土愛、そして作品の生まれた社会的背景についての大変貴重なお話を聞くことができました。

昼からの第二部で支部総会の各種報告・議決を行った後は、お楽しみ懇親会を行いました。

十七期の福田先輩に乾杯の音頭をとって頂いた後、同窓会ならではの歓談の花が咲きました。

私たち五十七期は年次順の出席者リストでは一番末尾側でしたが、同期みんな先輩方のパワー(元氣さ・賑やかさ)に感心するばかりでした。

東京支部から応援



磯部 弘志 (57期)

関西支部の皆様、磯部弘志と申します。五十七期の取りまとめをしておき、今回の当番幹事を推薦したという責任も感じつつ関西支部総会に同期の川野君、北君、梶山君の応援のため初めて参加いたしました。仕事の都合で当日移動となつてしまったために古川薫先生の講演には間に合わず、先生の講話を聞けなかったのは残念でしたが、懇親会にはゆつくり参加させて頂きました。

先輩後輩入り乱れて話が弾んでいる光景を拝見し、想像以上にアットホームな雰囲気思わず嬉しくなつてしまいました。関中、下関西高の卒業生、同窓生という単純なつながりで、こんなに沢山の絆が生まれていくこと、これがまさに同窓会の魅力ではないかと改めて実感いたしました。高校時代お世話になったバスケットボール部の山田先輩にも、三十数年ぶりに再会でき、顧問の先生から二人並んで痛い指導を受けた思い出

私自身は、前年の総会まで支部の活動のことを知らなかったのですが、同期および後輩の世代を見ると、未だに認知度が低いと思われる。大げさな言い方ですが、現代のような人間関係が疎遠になりがちな社会の中では本同窓会のような「濃い」集まりは大変価値があると感じます。今後も幹事の一人として支部の成長の一助になればと思っています。

最後に、暑い中ではるばるお越し頂いた来賓の皆様、参加者の皆様に心から御礼を申し上げます。ご健勝をお祈り致します。

旭陵同窓会に出席して

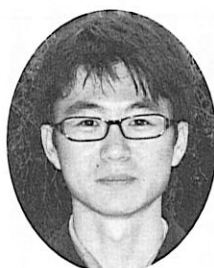


濱村 勝 (56期)

この度「ふるさと」のせき応援寄付金」制度のPRという役目を背負い、旭陵同窓会関西支部総会に参加させて頂きました。

卒業して早三十余年、決して避けてきた訳ではないのですが関西支部総会どころか同窓会に出席することすら初めてのことで、秋の気

初めて総会に参加して



西東 秀晃 (80期)

昨年初めて旭陵関西支部総会に参加させて頂きました。参加のきっかけとなったのは、現在住友病院で研修医をしているのですが、そこに同じ西高の出身者がおられたからです。誘って下さったのは内分秘代謝内科部長、山田祐也先生(五二期)という先輩。私もその研修先に先輩がいらつしやるとは全く思っていなかったので大変驚きました。

学生時代、百人程度の医学部に卒業高校によつては同期に数人、多ければ十人を超える所もある中、西高出身は同期ではゼロ。上下十年を見ても、二学年上に一人いるだけでした。同じ高校で集まっ

配などこれっぽっちも感じられない猛烈な暑さの中、何となく不安な面持ちで会場へ向かいましたが、旧友と再会した瞬間、その不安も吹き飛んでいました。

古川薫先生の講演に続いていよいよ懇親会。懐かしい話に花が咲き、肝心のPRも忘れてしまいうなほどでした。

それにしても、すぐに判る人、なかなか思い出せない人、様々ですが、声やしぐさは変わらないのだと改めて思いました。なぜか自分が若返った気がしたのは、きつと皆さんと同じでしょう。

十六年を過ごした関西を離れUターンしてもう十一年になりますが、今回の参加は、懐かしいだけでな

西支部の皆様もぜひご参加いただき、再会できるのを楽しみにしております。旭陵同窓会関西支部の益々の発展を祈念いたしております。

たり昔を懐かしんだりしている様子を羨ましく思っておりました。そのような状況でしたので余計に山田先生との出合いは嬉しく、また大変心強くありました。その大先輩に旭陵同窓会への参加を誘われたわけですが、私自身もどのようなものか非常に興味がありました。しかし一旦は参加することとしたものの、どんな人が来られるのかという不安もありました。でも、参加してみると諸先輩方は大変温かく迎え入れて下さり、お蔭で思っていた以上に楽しい時間を過ごせました。そして総会最後の校歌斉唱。久しぶりに校歌を聞け、そして歌えたのには熱いものがこみ上げて来るのを感じました。この関西においても下関西高で育まれた血を持ち、それぞれの分野で活躍されている先輩方が非常に沢山いらつしやることを再確認でき、大変有意義な時間となりました。そして私も将来、諸先輩方のような先輩と心から思いました。

今後、この旭陵同窓会のご発展に微力ながら貢献できればと思っておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

医療法人 祐生会

みどりヶ丘病院

(急性期病院)

診療科目:内科、消化器内科、循環器内科、外科、小児科
脳神経外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科
リウマチ科、形成外科、神経内科、
リハビリテーション科、麻酔科、放射線科

ベッド数:329床

名誉理事長 甲斐敏晴(31期)
〒569-1121 ☎072-681-5717(代)
高槻市真上町3丁目13番1号

みどりヶ丘訪問看護ステーション

☎072-681-5605

みどりヶ丘ケアプランセンター

☎072-681-5794

みどりヶ丘ケアプランセンター塚原

☎072-697-0037

みどりヶ丘デイサービス川西

☎072-686-3451



木下同窓会長

平成22年度 第17回総会

於:大阪弥生会館
平成22年9月5日(日)



古川先生講演



西高木村校長



講演を聴く参加者



杉支部長挨拶



懇親会



懇親会



懇親会



下関市役所より56期濱村氏



集合写真(中間)



集合写真(年長)



懇親会



2次会 アルル



2次会 Pocket



集合写真(若手)

医療法人 祐生会

名誉理事長 甲斐敏晴(31期)

みどりヶ丘介護老人保健施設

入所 107名・通所 50名
〒569-1041 ☎072-692-3111(代)
高槻市奈佐原4丁目7番1号

グループホームみどりヶ丘荘

☎072-692-3287

社会福祉法人 みどりヶ丘会

理事長 甲斐敏晴(31期)

グリーン特別養護老人ホーム

入所 70名
☎072-690-3331

グリーンケアハウス

入所 50名
☎072-690-3561

支部行事報告

秋のハイキング

十八回旭陵ハイキングに参加して

矢野 雅子(三十六期)

小春日和の十一月二十一日十八回目のハイキングが、二十五名の参加者で遂行されました。

阪急長岡天神駅に集合、お弁当と飲み物を求める為幹事さん予定のコースを変更、時間は十分あるからと田んぼに沿って歩くこと三十分、西山公園にて昼食。夏は幼児の水遊び場も今は水もなくのんびりお昼をとるには絶好の場所。心くばりの大型ブルーシート、奥様お手製の漬け物を皆のために持参の方、お酒、ビールで盛り上がる方、なかなか時間を過ごすこと一時間余り。すぐそばの天台宗延暦寺の末寺である長法寺へ、そこから田舎道を歩くこと五分、子守勝手神社と観音寺へ。

ここは明治の廃仏毀釈以前の形態を残し、神社と仏閣が同じ境内に存在する数少ない場所です。そこからさらに十分、本日の本命である光明寺へ。浄土宗西山派の総本山で、源平の合戦で平敦盛の首をはね、後に出家した熊谷次郎直実が法然上人の弟子となり修業した地でもあります。紅葉が有名で、一ヶ月前に下見された時の閑散とした雰囲気とのあまりの違いに幹事さんも驚かれていました。今年には紅葉が遅れたものの、丁度見頃でとてもきれいに色付いており皆さん大満足。さかんにシャッターを押されていました。紅葉祭りの間は本堂のお庭も開放され、一室では藍友禅の展示。現代の名工になられたばかりの橋詰清貴氏の大きな作品が所狭しと飾

られていました。思ったより時間を要したので、

学問の神様「長岡天満宮」では「ふれあい回遊の道(八条ヶ池上の木の橋)を歩くことができました。の、参拝のみとなりました。最後は皆さんの楽しみ、サントリービール工場見学。休日故機械の作動無く案内嬢の説明のみでした。幹事さんのご助力で試飲はプレミアムモルツ、しかも何杯でもオーケーとのことでしたが三杯が限度の様でした。さらに各人にグラス一個のお土産付き。ほろ酔い気分です。送ってもらって解散。地元に住んでいるからとはじめて参加したのですが、同窓という

だけで、何の違和感もなく受け入れて頂き、楽しい時を過ごさせて貰いました。



長法寺での集合写真



長岡天神駅集合



公園内昼食風景



竹林を歩く 右:筆者矢野さん

秋のゴルフ

第二十二回ゴルフコンペ

高津 治夫(四十期)

第二十一回ゴルフコンペは十月二三日、秋晴れの下「新大阪ゴルフクラブ」で開催されました。

二組のコンペといささか寂しい参加者数ではありましたがいつものメンバーに新幹線の田底成智さん(五十五期)を加え楽しい一日を過ごしました。

優勝は熊野裕治さん(四十五



光明寺での集合写真



光明寺紅葉

かつて、女子五名で入学した時、先輩は二名だけでしたので、今回多くの女子先輩にお会いして驚きました。西高の男子のみの時代は意外に短かったと痛感しました。



ビールの試飲



サントリービール工場見学説明

カフェミント

～ジャズと美しい映像の流れるお店～

Coffee & Jazz

〒530-0001 大阪市北区梅田2丁目5-2 新サンケイビルB1
TEL 06(6341)5047カフェタイム 9:30～18:00(土日祝休業)
パーティタイム 18:00～22:00

金谷 睦子(かなたにちかこ)(59期)

ミントミュージックスクール

～オトナのピアノ オトナのヴォーカル～

〒662-0052 西宮市霞町4-31
TEL 0798(33)9170 FAX 0798(35)7717

ジャズピアニスト 金谷こうすけ



万一ガスが漏れたとき、ガス漏れ検知警報器が発報しなかったら、大事故につながります。警報器の点検整備は当社にお任せください。

有限会社 西村電機サービス

取締役会長 西村 勲 (33期卒業)

〒599-8253 大阪府堺市中区深阪548

TEL(072)236-9508 FAX(072)230-2204

携帯 090-1447-8368

URL: http://www.nds-mente.co.jp

E-mail info@nds-mente.co.jp

ご家庭からコンビニートまで明日の安全を見つめています。

春のハイキング

花冷えの仁川から 春爛漫の夙川へ

竹内 正文(四十四期)

四月三日朝、花冷えのする曇り空、阪急今津線仁川駅に、手袋、ウィンドブレーカー、コートとそれぞれ防寒姿で集合。参加したのは十九名。三月十一日の東日本大震災で参加者が直前まで読めず、開催も危ぶまれたが、フタを開けてみれば昨年春と同じ人数が集まった。この日のコースは、三月六日に下見をして決めたものだが、図らずも二つの大震災鎮魂のハイキングとなった。

まず向かったのは「仁川百合野地すべり資料館」。一九九五年一月十七日阪神淡路大震災で、甲山のふもとにある浄水場の斜面で幅百m、長さ百mに渡って地すべりが発生、十萬mの土砂が家屋十三戸を押し流し34名が死亡した。斜面は小山を切土し、谷に盛土して浄水場を造成、崩落は人災の面も争われた。

三十分説明を聞き、崩落現場と施設を見学した後亡くなった人のご冥福をお祈りし、次に甲山森林公園に向かった。
雑木林の山道を抜け、三十分登って、森林公園の愛の像を望む展望台に到着、休憩。水分補給をして一服した後、北山貯水池に向かう。途中道路の桜並木は開花したばかりの蕾み。開けた高原に出ると北山貯水池。一番咲いている桜の木のもとで、幹事の山田氏が用意した、大きな工事用ブルーシートを敷いて全員車座になり昼食。池から吹き抜ける冷たい風に震え上がる。
食事の後、京都大学で原子力を研究された、小林先輩(三二期)に福島第一原発事故の話を伺う。

発電所の今後について質問が集中。特に参加女性四人全員、危機感を持って質問連発。小林先生より原発は最初の揺れで緊急停止したのでチェルノブイリにはならないという言葉をじかに聞いて皆さん一安心。

午後は、一時間後に神呪寺で合流する予定で甲山登山と神呪寺参拝コースに分かれて出発。

神呪寺(かんのうじ)は法燈一一八〇年の古刹。弘法大師を導師に本堂が落慶した事から甲山大師として親しまれている。境内には大阪湾を見渡せる高台に、大震災の義援金を募る鐘楼。ゴーン：ゴーン：次から次へと鎮魂の鐘が谷に響き渡る。合掌！

甲山コースと合流後、記念撮影をして下山。閑静な住宅地の近道を抜け阪急甲陽線甲陽園駅に到着、早めに解散。二人が電車に乗り、残りの十七名はさらに夙川まで散策。沿線にお住まいの上村ご夫妻の案内で、上村邸の前から、夙川河川



地滑り資料館



仁川沿いを歩く(先頭右が竹内さん)

敷に降りて桜並木を散策。この頃には青空が出て、気温も上がり春爛漫。日本さくら名所百選に選ばれた桜並木も丁度、見頃。当日開催予定の西宮さくら祭りのオープニングイベントは中止、花見客もドンちゃん騒ぎはなく静かに花見を楽しんでいた。



桜の下で集合写真



昼食状況



夙川公園



神呪寺での集合写真

第二十二回ゴルフ大会 「念願の安田賞」

奥田 一夫(四十三期)

安田賞！安田賞！安田賞！ついに取ったぞ念願の安田賞。

競馬の話ではありません。旭陵関西支部のゴルフコンペにだけ設けられた特別賞のことです。

この賞は、神戸で黒毛和牛の専門店「味鉄」を営む四三期の安田君が提供してくれた賞で、今や、誰もが一度は手にしたいと願う獲得難易度の高い賞なのです。

賞品は、黒毛和牛の極上ステーキ肉四〇〇gで、一度食べたらその豊潤な味わいはイーグルを取ったような気分になさしてくれるという話です。

今年も、第二十二回関西支部の大会が、五月二日新大阪ゴルフクラブにて十二名の参加者を得て行われました。この会には、特別賞が二つあり、一つは故人となられた伝説のプレーヤー山城氏を讃えて、ベスゲロの方に与えられる「山城賞」。もう一つは、その日によって予め獲得出来る順位を定めておくという、「安田賞」です。今回は、第八位の人が獲得出来るという事で、優勝よりも、八位争いが熾烈を極めるといふ面白い展開になりました。私も今回が初めてで、やっと念願がかないました。今大会の最年長は二九期の小中頼文氏。また、最年少は五五期の宮本和浩氏、磯部晶氏、五五期の田底成智氏、常任幹事の五四期阿部紀一郎氏が比較的若手？として頑張ってくれました。

年長組は、三五期藤田克雄氏、三九期中村利明氏が上位入賞で、気を吐いております。四三期からは永富浩、木原多佳雄、今回の優勝者である杉頭紹、私の四名そして山城賞を獲得した四五期の熊野裕治氏は、抜群の安定感をもって四連覇はなりませんでしたが、見事二位入賞です。

後列左から2人目：奥田さん



片山 啓

院長 片山 啓(48期)

〒657-0846 兵庫県神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号
TEL 078(802)5990 神戸市委託 病児保育室プエリ 併設

医療法人

なかじま整形外科

・リウマチ科 ・リハビリテーション科

院長 中 嶋 洋 (49期)

〒569-0814 高槻市富田町3丁目1番10号
☎ 072-690-3230 FAX 072-690-3231



集合写真

第8回 日 帰 り 旅 行

2011年1月30日(日)
於 城 崎・佐 津



ホームでの集合風景

かにカニ旅行記

村 永 次郎(四十八期)

大雪だった！翌日、城崎温泉から浜坂まで運休！一日遅えば・・・滑り込みセーフ。

「カニツアー」初めての参加。この冬、日本海側は連日大雪で、今回はどうなるかと心配していた。しかし、そんな心配をよそに快晴の中大阪駅出発、と同時にビールつまみが配られ始めた。おっ、そうか、さすがだな。考えてみれば当然か。途中駅で人数を加えつつ順調にビール缶が溜まっていき、一升瓶にワインまで。あれ、オープナーがない、車掌や車内販売まで聞く。さすが西高。決してあきらめない。

雪の日帰りカニツアー

永 地 英仁(五十二期)

朝七時四十五分に大阪駅構内のイカリスパー前に集合。全員揃うまでの間、五六期の山田氏と一緒にイカリスパーでお酒とつまみ等の買出し。参加者は二二名の予定でしたが、一名集合時間に遅れ、後続の列車で来られるとの連絡があり、八時十二分の北近畿一号で大阪駅を出発。列車に乗ると、四八期の上村先輩の差入れのつまみやお菓子が配られ宝塚や三田から乗車される方を待たず、すぐに恒例の酒盛りが始まりました。大阪の天気は晴れていましたが、城崎に近づくにつれ、徐々に雪景色となり、大雪となっていました。その大雪のため、城崎温泉の到着が遅れました。到着時は大雪となっており、駅のホームでは駅員が雪かきをしていました。乗換え予定の普通列車も遅れて到着し、その列車に乗換え佐津駅に到着し、すぐに送迎車で民宿「源助」に向

城崎駅では吹雪いていた。佐津に着き迎えのマイクロにツアー客が乗り込み雪の中に消えていく。我々も待つこと少々、酒が気を大きくしている。源助に到着！目の前に広がるかに、カニ、かに！初心者の私は遅れ気味。あちこちでかきの殻が積み上がっていく。熱気がきた。いよいよ私の本領だ。かにの生の甘いこと！ボイルも美味しい。酒も美味しいし申し分ない。量もたっぷり。あつという間に時間が過ぎた。

「かにカニ」とは良く言ったものだ。新聞ではよく見かける広告。実際、参加してみても実感した。さしずめ「かに」は刺身かな。カニは熱を通したもののかな。たくさんあるのかにカニか。なんて勝手に思った。



酒がうまい 右が村永さん

「源助」では、すでにボリュームたっぷりのカニ刺し、蒸しガニ、カニすきの料理と五十期の来島先輩とJR西日本からのお酒の差入れが準備されていました。杉支部長の挨拶と乾杯が行われ、参加者は即カニ料理に夢中になりました。カニを食べる時は静かになると言いますが、旭陵同窓会の参加者は、食べながら会話がはずみ、にぎやかな宴会となりました。後続列車で来られた先輩も宴会の途中で合流し、話題も増え再度盛り上がりしました。餘部鉄橋を見学に行かれる方は途中で退席され、佐津駅へ向かいましたが、列車が来ないため引き返して来られました。最後にカニ雑炊で締め括り終宴となりました。



早々と列車で宴会 左が永地さん

度しかなく、大雪でダイヤが乱れ、すぐに発車する列車の自由席で帰られる方もおられ、城崎温泉駅で解散することになりました。私はどうしても温泉に入りたく、山田氏と外湯「御所の湯」に行きました。入浴後に城崎温泉駅へ戻ると、乗車予定の列車はそれ程の遅れはなく、十五分遅れで到着し、約三十分程度の遅れで発車しました。帰りの列車内では皆さん少し静かでした。大雪で大変でしたが何とか無事に日帰りカニツアーが終わりました。ツアーの手配をいただいた来島先輩、参加者の皆様、大変お疲れ様でした。



大雪の佐津駅



蒸しガニ



宴会風景

とが出来た。帰りの列車もまた盛り上がり上がった。最初から最後まで盛り上がりつ放しのツアーだった。来年以降も参加できるような健康でなくてはと、感慨深い今回のツアーだった。是非、参加がまだの方、大いに参加しましょう。楽しいですよ！

阿武山こどもクリニック

院長 岡 本 良 三 (46期)

〒569-1041大阪府高槻市奈佐原2丁目3-22
TEL072(690)3225 FAX072(690)3226

おいしさの感動をお伝えする!!

黒毛和牛専門店 (神戸ビーフステーキ、しゃぶしゃぶ、焼肉) (株) 味 鉄

〈直営レストラン〉

・舞子 ・三宮 ・本山 ・西宮 等神戸一円10店舗

・(東京)赤坂店

日本一の神戸牛で、ゆっくりグルメの世界をお楽しみ下さい。

お中元、お歳暮には地方発送もいたします。お気軽にご相談下さい。

常務取締役

舞子店長

安 田 好 幸 (43期)

舞子店 神戸市垂水区東舞子町2-21(JR舞子駅すぐ)
TEL 078-783-3520 アドレス <http://www.k-wind.ne.jp/ajitetsu/>

私の お薦めの場所



私の好きな場所「能楽堂」

三戸 和子(六十二期)

最近私の好きな場所、頻繁に出かける場所、それは能楽堂です。京阪神の常設の能楽堂は十数カ所、また野外能ではお城の庭や神社の境内などに仮設の舞台が作られます。

初めて能楽堂を訪れる人は、その形に驚かされます。能楽堂は左右非対称、まず正面に正方形の舞台、向かって左手に橋掛りという廊下、屋内なのに舞台の上に屋根が、また舞台の角の柱がなんとも目障りです。

なぜ能楽堂に行くようになったのか？きっかけは能楽囃子を聴くためです。西高時代は吹奏楽部でしたし、若い頃はずっと西洋音楽ばかり聴いてきました。しかし年齢を重ね、ふと日本の音楽がやってきたくなり、まず歌舞伎に使われる長唄囃子の篠笛と能管(のうかん)を習い始めました。篠笛の音は「日本のメロディだなあ」とすんなり耳に入ってきました。いっぽう能管は、ドレミとは全く異なる不規則的な音階をもち、また笛でありながら打楽器の要素もあり、音のかすれや倍音が魅力とも味わいともなる、西洋音楽とは全く異なる価値観をもっています。テレビのCMなどで「いよおーっ」のかけ声のあとに「ヒューッ」と鳴る笛、あれが能管です。非常に斬新、でもなぜか懐かしい音の不思議な笛をもっと知りたいと思い、歌舞伎よりも古い、能楽

も習い始めました。

能楽囃子は、笛(能管)と小鼓、大鼓(おおつづみ)太鼓の四拍子(しびょうし)が、気魄をぶつけ合い演奏します。四拍子に謡(うたい)を加えると、雛人形の五人囃子になります。

しかし「お囃子が聴きたい」という動機はマニアックで、本来、能楽のメインは役者であり、面(おもて)や装束、謡や舞であることは歴然としています。せっかくなら真正面からも能楽の魅力も味わおうと、最近謡の稽古も始めましたが、これが予想以上に楽しい！お腹から大きな声を出すのが実に爽快。また謡の意味が理解できると、情景や人物の心情に想像を巡らすことができます。西高時代「私、理系なのになんぞ？」と文句をいながら、冬休みの宿題で覚えた百人一首の和歌に能楽で再会すると、嬉しくなります。

私の謡の先生(観世流シテ方、上田拓司氏)に「出身は壇ノ浦のある下関です」と話したところ、「えっ？ウチは祖父の代から(神戸から)下関にお稽古に行ってきたよ。今は兄(上田貴弘氏)が毎月行ってます。亀山能、去年私も出演しました。」と、意外なつながりが発覚。ちなみに亀山八幡宮の亀山能は、豊臣秀吉が文禄の役(一五九二年)に出征する際、能を奉納したのが起源だそうです。

能楽には壇ノ浦を舞台とした「碇潜(いかりかづき)」や「船弁慶」、また「和布刈」といった作品もあります。みなさんも、能楽堂に足を運んでみて下さい。



2011年3月6日 大槻能楽堂にて
囃子 松風 戯之舞 右が筆者

関西を満喫した一年間



金子 優美
(70期)

もともと横浜もしくは東京勤務だったのですが、二年前の二〇〇九年四月一日付で大阪に転勤となり、この度また横浜に転勤となりました。

自分なりに関西でお気に入りの場所を開拓しましたので、ご紹介させていただきます。

一. 高野山の奥の院

高野山の奥の院は空海が入定された場所です。私はこの奥の院に関西赴任後の初めての休暇を使ってきました。奥の院の入口から実際に空海が入定された御廟まで約二kmあります。その御廟までの道には、空に向かってそびえたつ杉の木と、「空海の元で眠りたい」ということで戦国武将から一般企業まで様々なお墓があります。その風景は本当に神秘的であり、海外からいらっしやる観光客の方も

非常に多いです。フランスからいらっしやった女性に話しかけたところ「Fantastic!」と言われて、非常に感動されていました。

二. 堂島界限

私の職場は大阪の堂島界限にあったのですが、ここは本当に素晴らしい場所です。ちょっと歩けば中之島。最近は何となく整備されて、こじやれたドラマでよく見るようなスポットになっています。またランチには北新地。夜はともかく、昼は千円以下のランチを楽しくすることが出来ます。そしてなんとこちらも堂島ロール。あっさりとした生クリームが最高です。

三. 京都

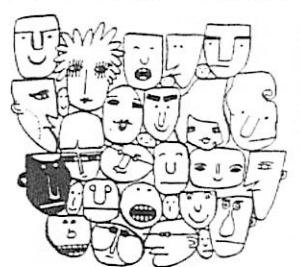
私は元々京都好きだったのですが、その京都好きが高じて関西赴任の最後の二か月間は京都に住みました。京都の中で特にどこが好きか考えてみたのですが、好きなところが多すぎて、敢えてあげると祇園、宮川町、上七軒などの花街(石畳がたまりません)、東福寺(紅葉の時期は最高です)、吉田神社(京大近くの神社)ですかね。

こうしてあげてみると、短期間ですが、関西を十二分に満喫できました。いい思い出ができてよかったです。



左:堂島川 中央:中之島 右:土佐堀川

旭陵同窓会の皆さま
ポケットです
よろしくお願いいたします



〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地1-11-19(北新地スタービル9F)



旭陵同窓会の皆様

新地の片隅のレトロな店です

お気軽にご利用下さい

アルル

深川 れいこ



〒530-0003
大阪市北区堂島1丁目3-33 北新地萬年ビル2階5
(堂島通り・国際モータープール隣)
TEL:06-6344-2468

落ち着いて酒に親しむ
「お初天神」周辺

おすすめの場所とは、人に是非行つて見なさいという場所であらうが、なにをもつてすすめるのか、お酒のおいしいところ、景色のよいところ、誇れるものがあるところ、どこなのか。

昨今の街並みの変貌はめまぐるしく、近代以降、大きく変わらなかつた田園風景は、車社会の発展と流通業の発達によつて、のどかな田園風景から虫食い状況の開発と看板や統一感のない建築物の乱立する風景に変わった。また、市街地においては、路地空間の喪失や景観をガラッと変える巨大建築物の出現など面影の残る街並みが少なくなつてゐる。

おすすめの場所として心にのこるナイスプレイスは、歴史を感じるとともに、思い出をきざみ、こころ落ち着かせる場所もそのひとつであろう。

独身時代には、通勤途上でもあった大阪・梅田界限などで気分転換することが多かった。この界限は地下街など人工的な街のイメージと、雑然とした街の雰囲気にあまり馴染めないうところであったが、その中でも、「お初天神」周辺は落ち着いて酒に親しむことができる快い場所であった。

しかし、結婚により京阪沿線に居を構えたこともあつて、京都に出向くことが多くなり、自然と梅田界隈から足が遠のいてしまつてゐた。

六十歳を超え、知りえた人ときるだけ親しく付き合いたいと思い、会社帰りに落ち着いてお酒が飲める場所がないかと考えている

久しぶりに「お初天神」に行ってみると、以前酔っ払った思いのある店などが残っており、お初徳兵衛を偲んで、お祈りやお礼に訪れる二人連れや若い女性に混じって、ビル群の合間の路地から滲み出す人の休息するナイスプレイスとして「情緒ある場所」が維持されているのである。

お店を出て「お初天神」の境内で、三十歳代の女性が鳥居の下をお辞儀して通る姿に出会い、ほろ酔い気分に快い気分が増し、ここに来てよかったとの思いを抱き家路に着いた。

桑原 裕司(五十六期)

私の実家（現在、上田中町）の窓からは関門大橋が見える。また、唐戸市場まで三、四分、両親は何とも海の近くに家を作ったものだから、当時西高へは走って一分（毎朝

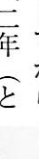
なぜか走っていた)のところに住んでおり、日常に海は出てこない。ただ、下関を出てからは、やはり自分が港町生まれであることを何かにつけ実感することが多くなっ

た。大学生のころ、京都では山に
囲まれながら過ごした。東山の麓
銀閣寺あたりに下宿し、吉田山に
はちよくちよく、ときには大原や
貴船（よく聞く北山は山ではない）
まで足を延ばしたことはあるもの、
どうも山や峠に行くと居心地が悪い。
当時現役だった夜行急行で山陰を
回って朝方

に下関駅に
降り立つと、
どこからか
漂ってくる
潮の香りが



帰省の挨拶
だった。就
職してから
一、二年（と

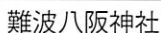


ビルの谷間に建つお初天神

柴田 徹也(六十四期)

大阪一の繁華街、ミナミの喧騒が遠くに聞こえる、閑静な一画に難波八阪神社があります。スサノオノミコトを祭神として祀り古くから難波の氏神として信仰を集め、戦災で焼失したものの昭和四九年に現在の社殿が再興されました。

その敷地に足を踏み入れて正面の拝殿に向かって石畳を進むと、新緑眩しい桜の木の向こうから、高さ十mはあろうかという巨大な獅子が大口を開けて睨みつ



けてきます。神聖な雰囲気の中で突然現れる荒唐無稽なオブジェのようなその姿に、初めて訪れる人の反応は驚くやら呆れるやら、とにかくインパクト十分、まさに「つかみはOK」なのです。

その両目にはサーチライト、鼻の穴にはスピーカーが仕込まれ、開いた口には上下三十二本の金色の牙が光りその奥にはステージが・・・という趣向。そう、実はこれ獅子舞台と呼ばれ、神事の際や夏祭りに能や獅子舞を披露するための舞台なのです。

さすがは大阪人というか、建てる方も建てる方なら檀家衆もよく認めたものだと思ひます（ちなみにかつては各種お守りが二四時間いつでも買える、お守りの自販機も設置されていました）。

三年前に勤務先がすぐ近所になり通勤途中になんとなく立ち寄って手を合わせるようになって以来、今では毎朝この神聖な空気を吸いこみ、でっかい獅子と睨み合つて？気合を入れて仕事に向かう毎日。私にとって欠かせないパワースポットです。ミナミにお越しの節は是非足を延ばしてみては？

（それにしてもなかなかご利益にあずかれないのは信心が足りないせいかな、それともお賽銭の額が足りないのか？）

	氏名	期	電話番号	勤務先
支 部 長	杉 顕紹	43		東洋紡
副支部長	門田 幸	43		光アルファクス
幹 事 長	竹内 正文	44		関西文化学術研究都市推進機構
副幹事長	阿部紀一郎	54		(自宅) 大阪ガス
事務局長	大野 浩史	53		SMBCサービサー
会計監査	唯岡 和夫	45		ダイハツ工業
常任幹事	上村 繁典	48		誠商会
同	中嶋 洋	49		なかじま整形外科
同	来島 達夫	50		JR西日本
同	永地 英仁	52		エヌアイ帝人商事
同	田底 成智	55		中央復建コンサルタンツ
同	山田 浩幸	56		鴻池組
同	中谷 幸一	56		オンワード・パーソナル・スタイル
同	川野 博義	57		日建設計
同	新田浩二郎	58		大林組
同	金谷 睦子	59		カフェメント
同	三戸 和子	62		自宅
同	柴田 徹也	64	ブルデンシャル・ジブラルタエージェンシー	
顧 問	空谷 俊和	27	自宅	
同	甲斐 敏晴	31	みどりヶ丘病院	
同	内藤 尚	31	自宅	
同	安野 洋一	33	自宅	
同	末光 久	42	自宅	

関西支部事務局

大野 浩史

第二十三回ゴルフコンペの御案内

▼日時 十月二十二日（土）

第二十回ハイキングの御案内

日時 十一月二十日（日）

▼ 埃所 另文

▼日寺来年二月二十九日(日)

▼場所
城崎

編集後記

◆阪神淡路大震災の翌年創刊された「旭陵関西」、今回が十六号となります。

皆さんのご協力で、原稿は順調に集まりましたが、今回は割付に苦労しました。内容を読むと写真が欲しくなり、写真を載せると、スペースが不足、せつかくの原稿を少し省いていただく羽目になる。割付によっては、スペースが空きすぎる場合も出てくるといった具合に中々うまくいきません。いつもはハイキング・ゴルフの報告、写真を別々に掲載していましたが、今回写真を減らし、四・五両面に行事報告をまとめることにしました。七面・八面の「私のお薦めの場所」も同様です。個人写真で筆者全員ご紹介しなかったのですが、紙面の都合で一部割愛しました。

◆私の西高在学当時、西高新聞は年四回発行していました。ブランケット判、この会報の倍の大きさです。昭和四〇年秋に百号を発行しました。いま継続しておれば二百号は越えているでしょう。唐戸、茶山通り豊前田通りを広告依頼に歩いた思い出があります。

◆九月四日の総会、特別講演の講師は四十三期、前東大副学長の岡村定矩氏です。演題は「宇宙ってなんだか知っていますか？」。簡単そうで答えに困る質問です。

大変興味深い話を聞かせていただけるのではと、楽しみにしています。ご本人だけでなく、是非、ご家族を誘ってお越しください。九月四日弥生会館でお会いしましょう。

(門田)